



# 掛合中だより

令和5年度 11月号  
雲南市立掛合中学校  
2023. 11. 20 発行  
文責 難波 順子



学校教育目標

ふるさとを愛し 自他を大切にしながら たくましく未来を切り拓く生徒の育成

<https://shimane-school.net/unnan/kakeya-chu/>

## \*輝彩（こうさい）～輝け！色とりどりの星（スター）

「一人一人の彩りが、スターのように光りますように」

「皆で力を合わせることで、夜空に輝く満点の星のように、一体感のある輝きにしていこう。多くの中の1人ではなく、個としての彩りを発揮しよう！」

これは、生徒会が中心となって考えた今年度の文化祭のテーマです。合唱や展示作品での発表を通して、個としての輝きと、それが調和して大きな光を放つ輝きにも繋げるとい見事な表現や込められた思いに感心するばかりでした。

一人一人の力を信じ、取り組んでいく生徒会と、一人一人が自分の役割をもち表現していく生徒達の姿は、これから先の未来も明るく輝くものであると確信し、またそうでなければならぬと、改めて思わせてくれる文化祭でした。

地域・保護者の皆様にも、たくさんの拍手や言葉をいただきました。3年生にとっては最後の文化祭でした。この文化祭を経て、それぞれの学年もまた次のステージへと進んでいきます。今後とも温かいご声援をよろしくお願いたします。



総合的な学習の時間に指導してもらいながら完成させた一式飾り「ミニオン」です！→

### 【来場者の方の感想から】



◆今年度はオープニングもあり、とても楽しませていただきました。合唱では、1、2年生は人数が少ないですが一人一人とても大きな声で、後ろまで届いていました。3年生は素晴らしいハーモニーで、感動で涙が止まりませんでした。展示ではミニオンが入ってすぐあり、圧倒されました。皆さんが日頃学校で頑張っている姿が目につきました。◆とてもすばらしく立派な文化祭でした。掛合太鼓で始まったことも、掛合中学校らしいと感じました。合唱についても、団結力を感じ、みんなの仲の良さが分かります。学年が進むにつれ熟練度が増し、3年生はさすがという感じです。全員が参加してこれだけの出来栄を発表できるのは、練習量も大変だったと思います。吹奏楽はとてもすてきなショーでした。金賞受賞の演奏はもとより企画もすばらしい。生徒たちが楽しんでやっているのが一番でした。展示コーナーでも、大人も考えさせられるような高度な内容で感心しました。こういう子供たちが将来を担ってくれると思うと頼もしいかぎりです。

## ●雲南市キャリア教育講演会 ホシザキ株式会社取締役会長 坂本精志 様をお迎えして

雲南市では、市内の中学校で自分の将来や生き方を考えることを目的として、市にゆかりのある方を招き、毎年講演会を行っています。今年度は掛合中学校で、10月16日(月)にホシザキ株式会社取締役会長の坂本精志様をお迎えし、お話を聞いたり、インタビューに答えたりいただきました。講演は、「未来をつくるみなさんへ」と題し、ご自身のこれまでの挑戦してこられたことや、実践してこられたことから、多くのメッセージを中学生にいただきました。講演会後の質問コーナーでは、多くの生徒達の手が挙がり、積極的に頼もしいと後で褒めていただきました。以下に生徒の感想文を紹介します。



○坂本さんのお話を聞いて、また、坂本さんを見て生きていくうえで体力も気力もどちらも大切で、成功するのか失敗するのかは全て自分の気持ち次第なのだとすることを深く感じました。とにかく思いついたら行動することが大切だと深く感じました。今日教えていただいたことを自分の中に深く留め、人生を大切に、よりよいものにしていきたいと思いました。 ○今回の講演会で学んだことは、「出来ることはすべてやるということ」「変化は進歩だということ」「いい学校にはいい仲間がいるということ」「人と同じことをしない」ということです。心に残ったことは、「頑張ればいい時が来る。悪いときは続かない。悪い時に途中で逃げると絶対に成功しない」という言葉です。私も嫌な時、成功しないときもあるけど、そればかりではなかったので、確かかと思えました。他にも、「無駄と思えることでもあとで考えると必ず役に立つということ」です。意味がないように思えることでも、積み重ねていけば、いつか自分の力になると信じるのが大切なんだと思えました。今回坂本様の話されたことを心に刻み、これからも生活していきたいと思いました。



## ●松江自主研修を行いました。(1年生)

10月26日(木)に1年生は松江自主研修を行いました。この活動には、「雲南市外の魅力や課題を学び考える」「主体的に動ける集団づくり」「公共の場所でのマナーやふるまいを身につけ、様々な能力を育てる」というねらいがあります。

生徒達は、福祉・観光・自然などテーマ毎に班に分かれ、話し合い活動を行いながら、調べ学習や実際に訪問する場所を選び、体験やインタビューを行ってきました。予定通りにいかなかった班もあったようですが、それも学びです。2年時の修学旅行でも得た力を生かしてほしいと思います。



## ●「働く」とは・・・? 3年生職場体験学習お礼の手紙から

職場体験学習をさせていただいた事業所にお礼の手紙を書きました。生徒達は様々なことを学び、事業所の方に大変お世話になったことが伝わってきます。紙面の都合上すべて紹介できませんが、改めてこの学習の大切さを実感するとともに皆様のご厚情に感謝申し上げます。

○整備士という仕事は法律によって厳しく決められた中で仕事をしておられ、事故が起きないようにお客様の安全を第一に車を整備されておられることがわかりました。「働く」とは、ただの作業ではなく、お客様のことを思って、地域に貢献することだと思えました。

○様々な課の方にお話をいただきました。どの課の方も、とても優しく熱心にお話をいただきました。警察官という仕事はただ厳しく大変な仕事だと思っていましたが、とてもやりがいがあり楽しい仕事だと思えました。「働く」とは、人とのつながりが大切なのだと思えました。

○最初はこの「掛合の里」の仕事はほとんど一人でされておられることに驚き、同時にすごいなと思えました。また、接客の仕方や、お客さんが商品を倒してしまった時、さっと直しに行かれる姿を見て、僕もこんなふうに関われる人になっていきたいなと思えました。「退屈な時間が多かったでしょ。」と言っておられましたが、3日間という短い時間でたくさんのことを学ばせていただきました。

○皆さんが優しく接してくださったので、積極的に活動することができました。実際に機械を使ってサイコロを作ったことや、小山社長さんが「僕たちは、人を喜ばせる存在になるために生きている」という言葉に感銘を受け印象に残りました。

○木の伐採など、体験してみて、こんなに大変なことを毎日しておられることに驚きました。大変な仕事を皆さんで協力してこなされるお姿に心を打たれました。「働く」とは、自分の能力を生かし、仲間と目的を果たしていくことだと考えるようになりました。

○はじめは上手く話せるか、失敗しないか不安でしたが、仁寿会の皆様に優しく話しかけていただき、丁寧に教えていただいたりたくさん気にかけてくださいました。私は「働く」ということは、作業をするだけでなく仲間と協力したり思いやり自分でもやりがいを見つけて楽しんでやるものだとわかりました。また、自分が受け持っている仕事に誇りと自信をもち、責任をもってやり遂げることの大切さも学びました。

